

令和2年度 嘉麻市教育委員会 生涯学習課事業総括表

番号	アクションプラン 主要瀬策	アクションプラン 施策内容	アクションプラン 事業名	個別事業名	R 2 年 度 総 括					
					Plan	Do		Check		
					実施目標	実施時期	具体的内容	成果	課題	自己評価
1	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	① 文化芸術活動推進事業	文化芸術活動推進事業	○市文化協会などの関係団体と連携し、市民の主体的、自主的な展示活動やアトリエでの創作活動を支援する。 ○学校などと連携して、児童生徒などの芸術鑑賞や創作活動を支援する。 ○蓄積した知識や情報を活用し、地域などでの出張美術館(出前学習)を実施し学びを支援する。	4月～3月	○新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、関係団体の展示活動や地域における子どもたちの創作活動支援や美術館での児童の芸術作品鑑賞はほぼ中止となった。 ○今年度は新型コロナウイルスの影響により、出張授業などが行えない状況であったが、来年度に向けて小中学校やその他の学習施設に向けた「美術館で出来ることメニュー」作成。	○予定された11展示会のうち、感染症予防対策の取組の中で、1個展と筑豊地区中学校総合文化祭美術・文化作品展が開催され、予定外で児童生徒の書初め作品展が開催されるなど特に週末は多くの来館者があった。 ○市民アトリエは水墨、日本画の教室で利用され、コーラスは碓井住民ホールに会場を替え、学びを継続した。 ○コロナ禍の中、碓井小2年生と鴨生保育園児の芸術作品鑑賞があり学習支援が出来た。 ○教育普及事業の充実を図るため、簡単に出来る「平面」や「鑑賞」のメニュー、じっくりアクティブに活動出来る「立体」など、分野に分けてメニュー制作に着手することが出来た。	○地域での子どもたちの創作活動や館内外での学習内容を充実させる。 ○美術館を活用する学校が固定化し、広がらない。 ○今後も入館者及びアトリエ、展示室5利用者への有機物持ち込み禁止について理解と周知に努める必要がある。	B
2	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	② 美術館運営管理事業	美術館運営管理事務	○美術館を訪れる人々が、快適な環境で安心して、芸術鑑賞や創作、展示などの文化芸術活動を行い、また、憩いの場となるように施設の維持管理と運営を行う。 ○広く美術館や事業などの周知に努める。	4月～3月	○継続して保守点検や清掃、警備など施設の維持管理に必要な業務を委託し、維持管理運営に努める。 ○指定管理者制度導入に向けて取組む。 ○新型コロナウイルス感染症拡大予防対策。 ○展覧会リーフレットの作成と配布。 ○市広報紙、美術館ホームページなどの管理と活用。 ○SNSアカウント作成と写真撮影コーナーの設置。 ○常設展示作品の見直し。 ○筑豊美術館ネットワークでの連携。 ○物販スペースの見直し。	○継続した維持管理により快適な環境の中で安心して施設の利活用、芸術作品鑑賞を行うことが出来た。 ○指定管理者制度導入に向け、視察、民間業者との意見交換を行うことが出来た。 ○リーフレット、市広報、ホームページ以外にSNSを活用した情報発信や季節に応じた写真撮影コーナーを設けるなど幅広くイベントの告知、美術館の周知・広報活動と思い出作りの支援が出来た。 ○長期の臨時休館を活用し、常設作品の展示替えを行い、収蔵作品を活用し、さらに織田廣喜の魅力を伝えることができた。 ○コロナ禍の中、筑豊美術館ネットワークに学芸員が参加し、知識と交流を深めることが出来た。 ○SNSで情報を拡散した結果、来館者以外にも他美術館、博物館、アーティストに当館を周知してもらえるようになった。 ○ポストカードやポスターの販売など、管理が容易となった。	○美術館の快適な環境を保持する。 ○媒体であるフロンガス製造中止による供給不可と耐用年数を超過している空調設備(加湿器など)及び電気設備の改修が必要。 ○安定した施設運営の検討・実施。 ○美術館の幅広い周知と情報発信。 ○当館の来館者は高齢者が多く、SNSになじみの無い世代が中心である。そのような方々に対して効果的な情報発信を行い、更なる来館者の増加、周知を図る必要がある。	A
3	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	② 美術館運営管理事業	碓井琴平公園管理事業	○隣接する芝生広場が、人々の憩いの場として快適かつ安心して利活用できるよう環境美化と維持管理を行う。	4月～3月	○敷地内の清掃など。 ○公園内トイレの清掃、消毒(コロナ対策)。 ○定期的な芝生の刈込み及び栄養剤、除草剤の散布。 ○オカメ笹、支障木の剪定。 ○朝夕の解錠、施錠による敷地内見回りによる監視。 ○風倒木、ゴミの不法投棄などの監視と対応。	○適切な維持管理により、平日、休日を問わず市民の散歩やレクリエーション、近隣児童生徒の遊び場となっている。 ○市内小学校の遠足地として定着しており、プレーパークでも活用されている。 ○支障木などの剪定により敷地内の見通しが確保され、防犯対策となった。	○公園の維持管理に努める必要がある。 ○公園を巡回し、状況確認や芝生内の石やゴミなどを取り除く必要がある。 ○公園利用のマナー及び案内と利用をPRする必要がある。	B

番号	アクションプラン主要瀬策	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	R 2 年 度 総 括					
					Plan	Do		Check		
					実施目標	実施時期	具体的内容	成 果	課 題	自己評価
4	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	② 美術館運営管理事業	収蔵作品等の保存及び管理	○適切な環境の下、収蔵作品及び展示作品の保存・管理を行い、活用を図る。	4月～3月	○データ管理システム「IBミュージアムSaaS」の導入、情報公開。 ○収蔵品データの見直し及び台帳記入内容の整理、統一化。 ○収蔵作品の修復及び写真撮影。 ○空調設備の管理業者との連携による空調設備の維持管理。 ○収蔵庫の清掃及び燻蒸。 ○虫菌害の防止体制。 ○常設展示作品の入替と春のコレクション展の開催。	○新たな収蔵作品データ管理方法を導入したことにより、情報管理が最適化され、館内外における収蔵作品データ活用がより容易になった。 ○収蔵作品データの見直しを行い、データの整理及び作品の把握が出来た。 ○収蔵作品の写真撮影を行い、ポジフィルムとデジタルデータの2種類の蓄積を行うことが出来た。 ○温湿度の管理と管理委託業者との連携により、空調環境を保つことができた。 ○収蔵庫4の燻蒸を実施し、虫菌害の予防が出来た。 ○収蔵品の修復により、作品の保存と活用が出来ようになった。 ○適切な収蔵品の維持管理により常設展及び春のコレクション展で収蔵品の活用を図ることが出来た。	○引き続き収蔵作品のデータ整理を進める必要がある。 ○毛髪式自記温湿度計の計測値にばらつきがあり、定期的な校正が必要である。 ○データロガーによる温湿度管理体制を強化する必要がある。 ○春先や梅雨時期など湿度が不安定になる時期に、恒常的な温湿度管理のため、空調機管理委託業者と連携を密にする必要がある。 ○作品の良好な状態保持と活用を図るため、定期的なコンディション確認や修復作業の実施、継続的な収蔵庫の燻蒸が必要である。 ○重要区間である展示室及び収蔵庫の環境設備に努める必要がある。	A
5	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	③ 企画展事業	春のコレクション展2020	○当館では織田廣喜作品を中心にその他、地域縁の作家などの作品を所蔵している。それらの作品を常設展示とは別に特別展示として展示公開し、当館の誇る名品の魅力を紹介する。	4月1日 ～ 4月8日 ／6日間 ※新型コロナウイルス感染症予防対策のため繰り上げて閉幕	「作家たちの旅行記-なぜ、そこを旅したのか?-」開催。 ○当館所蔵の織田廣喜ほか3作家の作品69点と織田廣喜の遺品4点および二次資料17点により旅をテーマとした展示。 【関連事業】 ○旅トーク 6/16、8/7、10/2、12/4、2/5(19:00-21:00) 嘉穂ふるさと交流館 ○旅のフォトエッセイコンテスト 2/29-4/8(展示) ※当初12日まで ○ギャラリートーク 3/1、3/8(中止) ○迫水秀樹トークアンドライブ 3/6(中止) ○手作りフォトフレームワークショップ 随時(中止) ※中止は新型コロナウイルス感染症拡大予防対策のため。	○収蔵品の分析や調査を行うことが出来た。 ○収蔵作品を活用した展覧の機会となり、報道などを通じて周知することが出来た。 ○関連事業の旅トークで旅の思い出を語り合ったり、旅のフォトエッセイコンテストには32名の応募があり、応募作品はサロンに展示することによってコレクション展を盛り上げることが出来た。	○コレクション展の来館者が少ない。 ○作品及び作家の調査を日常的に行い、コレクション展に反映させていく必要がある。 ○常設展示において作品の展示替えが不定期で、作品の劣化や展示構成のマンネリ化も懸念される。	B
6	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	③ 企画展事業	中原淳一展 美しく装うことの大切さ	○中原淳一(1913～1983)は、女性が本来持つ「美しく装うこと」によって「自分を表現する」意識に、戦前、戦中、戦後を通して多大な影響を及ぼしてそれを育てた。ファッションのみならずその仕事は戦後の女性の生き方に大きな影響を及ぼし、今も脈々と受け継がれている。現代においても古びた印象を与えない中原の数々の仕事が、彼のゆるぎない一貫した平和を愛する心を基に創り上げられたものであったことを紹介する。 ○前年度の「花村えいこと漫画」に続き、日本の少女像のイラストの源流ともいえる中原淳一の展覧会を行う。織田廣喜の作品においても特に知られて人気があるのが「少女シリーズ」である。今回の中原淳一の描いた少女群とともに、織田廣喜の少女たちもその魅力を紹介していく。	5月31日 ～ 7月12日 ※新型コロナウイルス感染症予防対策として未実施	—	—	○中原淳一展は、令和3年度実施を計画しているが、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、中止の場合もある。	—

					R 2 年 度 総 括						
番号	アクションプラン主要瀬策	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	Plan	Do		Check			
					実施目標	実施時期	具体的内容	成 果	課 題	自己評価	
7	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	③ 企画展事業	第76回県美術展覧会筑豊展	県展筑豊展を開催することで、市民に美術鑑賞の機会を提供すると同時に、更なる創作意欲を高め、美術活動の充実を目指す。	【第1期】 10月14日 ～ 10月18日 【第2期】 10月21日 ～ 10月25日 【第3期】 10月28日 ～ 11月1日 ※県美術展覧会実行委員会より新型コロナウイルス感染症予防対策として未実施との連絡があり、巡回展も中止	—	—	—	—	—
8	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	③ 企画展事業	春のコレクション展2021	○当館では織田廣喜作品を中心にその他、地域縁の作家などの作品を所蔵している。それらの作品を常設展示とは別に特別展示として展示公開し、当館の誇る名品の魅力を紹介する。	3月6日 ～ 6月13日 /72日間	○常設展とは別に収蔵作品を活用した展覧会の開催。 ○開館25周年の節目にあたり、「織田廣喜と織田廣喜美術館の人生」をテーマに「LIFE～開館25周年記念展～」を開催。 ○織田廣喜作品44点、織田の長男・廣比古と次男・きじ男の作品を各1点ずつ出品するほか、当館に関連する織田の展覧会を記録した資料を複数展示。 【関連事業】 ○織田廣喜美術館リアルすぐろくで遊んでみよう 随時 ○自分で作れるお祝いグッズコーナー 随時	実施中	実施中	—	—
9	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	④ 美術教育普及事業	美術館ボランティア事業	○会議や講師との事前学習や事業に参加しながら、子どもたちの美術活動の充実を支援する。 ○活動を通して美術館活動に関わる人材の育成と相互の連携、仲間づくりを行う。	4月～3月	○ボランティア会議の開催(1月20日)し、アートキッズの概要説明と2月のアートキッズの講師とワークショップ内容の試作を行い、当日の役割分担を決め。 ※新型コロナウイルス感染症感染予防のため、欠席者あり。 ○アートキッズのリリアン編みのサポートを行う。	○今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策のため会議が開かれず年明けになったが、講師との顔合わせができ、参加者は試作を楽しんでいた。 ○アートキッズには3名のボランティアが参加し、子どもたちを支援しながら活動を楽しむことが出来た。	○今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で新しいボランティアの募集することが出来なかった。来年度は大学のボランティアセンターなどと連携を図りながらボランティア活動の充実を目指す。	B	

番号	アクションプラン主要瀬策	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	R 2 年 度 総 括					
					Plan	Do		Check		
					実施目標	実施時期	具体的内容	成 果	課 題	自己評価
10	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	④ 美術教育普及事業	アートキッズ	○芸術体験を通して面白さや楽しさを感じるにより、豊かな発想力を養い、感じたこと、想像したことをそれぞれの方法で創造し、表現する力を養うことにより豊かな感性を育む。	2月27日～ 2月28日	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防の関係で、人と人の距離が開き、つながりが厳しい状況である。この状況の中、講座テーマを「つながる」、タイトルを「2mあむワークショップ」とし、参加を申し込んだ児童がリリアン(組紐)を編み、各自が作ったリリアンをつなげることで、作品を通じて「つながる」。 ○対象は小学生。募集定員20名(嘉麻市在住優先)。開催日時:2月27日(土)・28日(日) 時間は午後1時から3時。 ○講師はmaruikoさん、佐土嶋洋佳さんのクリエイティブユニット「サドシマルイコ」。スペシャルゲストにダンサーの緒方由香さん。 【内容】 ○27日:講師に教わりながら各自リリアンを編み、最後につないでいく。 ○28日:講師による資料閲覧室での展示作業を行う。新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点からパフォーマンスは、動画サイトで配信、参加者は動画を介して展示作業に参加。展示は春のコレクション展に併せる。(3月6日～6月13日)	○当初、長く編むことは子どもたちにとって少々難易度が高いように思えたが、実際に編むと、親子や兄弟で協力して編むグループが多く、長く編むことが出来た。 ○家族での参加も多数あり、その中で子どもと一緒に編む保護者や、子どもとは別に自身で編む保護者も見られ、受講生(小学生)同士以外にも参加者家族ともつながることが出来た。 ○単調に編むだけではなく、今回のアートキッズの為に制作した音楽とダンスは会場を盛り上げた。 ○展示室5、芝生広場を活用することで新型コロナウイルス感染拡大予防対策になり、参加者は伸び伸びと楽しむ事が出来た。 ○資料閲覧室での作品展示は、芝生広場から人の目を引き、興味関心を深めている。	○新型コロナウイルス感染症の感染状況などにより実施が遅れたり出来なくなる恐れがある。 ○コロナ禍の影響あると思われるが、最終的な参加者(小学生)は定員20名に対し17名と、定員を下回ってしまった。来年度は市内小学校の他にも市内各施設に対しても積極的に広報活動を行い、更なる周知を図る必要がある。	A
11	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	④ 美術教育普及事業	近畿大学連携事業	○芸術体験を通して面白さや楽しさを感じるにより、豊かな発想力を養い、感じたこと、想像したことをそれぞれの方法で創造し、表現する力を養うことにより豊かな感性を育む。	新型コロナウイルス感染症予防対策のため未実施	—	—	○令和3年度は継続して連携事業実施の意向を近畿大学に連絡しているが、新しい地域活動指導員をむかえ、改めて近畿大学との連携、連絡調整などが必要である。 ○新型コロナウイルス感染症の感染状況などにより実施が遅れたり出来ない恐れがある。	—
12	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	④ 美術教育普及事業	美術講座	○様々な分野の芸術を体験する機会を提供し、創作活動を行う中で芸術への興味を深め、豊かな感性と表現力を磨き、心豊かな人材を育む。	①1月31日 ②2月 7日 ③2月14日 3回講座	アートキッズ同様テーマを「つながる」とし文字を美しく書く手法である「カリグラフィー」について学ぶ。 ○対象者は中学生以上、募集定員12名(嘉麻市在住優先)。日時は1月31日、2月7日、2月14日の午前10時～12時 ○カリグラフィーの歴史を知り、文字の形を習い、最後にバレンタインカードを作成し交換。作品を通じて人と人が「つながる」。また、練習に使用した紙を和綴りで製本。	○12名(市内8名、市外4名)の応募があり、交流が出来た。 ○カリグラフィー講座終了後も、自宅でカリグラフィーの練習を行うなど、日ごろからカリグラフィーに興味を持ち、書く人材を育てることが出来た。 ○バレンタインカードを交換し合うことで、他参加者の文字の良さや工夫を感じ取ると共に、初めて会う参加者同士をも「つながる」ことが出来た。	○受講者はインク、ペン先、ペン軸の準備をし参加するようお願いしていたが、初めてのカリグラフィー講座ということもあり、準備した品が異なる参加者があるなど、気楽に参加してもらうという点では検討が必要である。 ○全3回、合計6時間でカリグラフィーの歴史から練習、実践、製本などを行うには時間が少なく、結果歴に受講者の数名からは物足りなさの声が上がっていた。内容と講座時間について考え直す必要がある。 ○新型コロナウイルス感染症の感染状況などにより実施が遅れたり出来ない恐れがある。	B